

そよかぜ



●巻頭言

生活科・総合的な学習の時間と
アクティブ・ラーニング

一般財団法人 教育調査研究所 研究部長
元全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会長

寺崎 千秋

2

授業実践

板書で気付きの質を高める

生活科における板書の重要性を問う

4

新潟県新潟市立山田小学校教諭 二野 憲子

授業実践

自ら考え自ら学び

互いに高め合う子どもをめざして

5年総合 東高津グリーンプロジェクトの実践から

神奈川県川崎市立東高津小学校教諭 石井 芳宏

こだわり館 噴符!

ドナルド・キーン・センター 柏崎 (新潟県柏崎市)

12

「立体はがき」を作って、思いを届けよう!

16



生活科・総合的な学習の時間と アクティブ・ラーニング



一般財団法人 教育調査研究所研究部長
元全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会長 **寺崎 千秋**

1 アクティブ・ラーニングとは

「アクティブ・ラーニング」は、平成26年11月20日、中央教育審議会の諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」で取り上げられ、以来、話題沸騰となっている。しかし、言説に踊らされている向きもあり、この諮問の趣旨やアクティブ・ラーニングの意義をしっかりと踏まえて、今、何をすべきかを考え実践することが大切である。

同諮問文では「アクティブ・ラーニング」を「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」としている。その意義は「ある事柄に関する知識の伝達に偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子どもたちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果を表現し、更に実践に生かしていけるようにする」ことであるとしている。知識・理解のみならず資質・能力の育成を重視して取り上げられている。すなわち、「何を教えるか」という知識の質や量の改善とともに、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、そのための指導の方法を充実させていく必要から取り上げられたものである。

アクティブ・ラーニングの意味については、「能動的な学習」や「発見学習」「問題解決学習」「体験学習」などもいわれている。

2 学習指導要領に見られるアクティブ・ラーニングに関連する事項

「1」で紹介したアクティブ・ラーニングの意味は、義務教育においてはこれまでも重視されてきたものであると受け止める声が多いし、そのとおりであ

ろう。こうした視点で現行の学習指導要領を見直してみると、まずは総則において、以下の事項をあげることができる（これらの規定は中学校でも同様）。

- 基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動の重視
- 児童の言語活動の充実
- 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習の重視
- 児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習の促進
- 児童の興味・関心に応じた課題学習
- 児童が学習課題や活動を選択
- 学習の見通しや振り返りの活動

総則は、各教科等の全てにわたる通則的な規定である。したがって、「アクティブ・ラーニング」という用語は使用していないが、まさに全ての教科等でアクティブ・ラーニングを取り入れ充実することを求めているのである。これを受けて、例えば総合的な学習の時間は、この時間の「目標」が問題解決力や探究力の育成をねらうとともに、そのための学び方としてアクティブ・ラーニングを重視している。また、この時間の「指導計画の作成と内容の取扱い」では、以下のようにアクティブ・ラーニングの充実を求めている。

- 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
- 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が

一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫すること。

この他にも、学習指導要領に示されている各教科等の「目標」や「内容」、「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「課題の発見・解決に向けて主体的・協動的に学ぶ学習」に関連する事項を見いだすことができる。

以上のことから、学習指導要領では、問題解決力、活用力、探究力の育成を重視し、そのためにアクティブ・ラーニングの重視や充実を求めていることが伺える。したがって、全教育活動においてアクティブ・ラーニングを取り入れ、学習方法としての活動の質を高めることが求められていると言ってよい。

3 アクティブ・ラーニングの指導の実態

では、なぜ、今、あらためてアクティブ・ラーニングなのか。

平成25年度に、教育調査研究所では、「小・中学校の教育課程実施状況の実態」の調査を行った。その結果、「児童（生徒）の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視している」、「児童（生徒）の言語活動を充実させている」、「体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視し行っている」、「児童（生徒）の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促がされるよう工夫している」について、「十分に行っている」と回答した学校は10～20%台であり、まだ十分とは言えない状況にあることが明らかになった。

また、平成26年度の同調査の教員個々を対象にした調査では、「十分」の回答が5%前後、一方で「努力を要する」の回答が30%前後であった。これらの指導に、教員の多くが自信をもてない状況にあることがわかった。

要するに、各学校の多くの授業は、アクティブ・ラーニングではなく、教師中心の一斉解説型授業から転換されていないということである。今日、アクティブ・ラーニングそのものといわれる生活科が始まって四半世紀、総合が始まって実質15年が過ぎている。これらに本気で取り組んでいる学校・教師はアクティブ・ラーニングの指導法を身につけ、能動的な学び、探究的な学び、主体的な学び、協動的な学びを子どもたちに具現しているのであるが、残念ながら少数に止まっている。

これらのことから、学習指導法の充実と学びの質を高めることを目指して、アクティブ・ラーニングに関する教員の力量を高めていく研修の充実や強化が、今後、強く求められるところである。

4 アクティブ・ラーニングの授業づくり

アクティブ・ラーニングを意識し学びの質を高めるためには、その指導方法を生活科や総合的な学習に学ぶことが必要である。以下は、そのための指導のポイントである。

- 1 問題解決的な学習過程を重視する……各教科等で問題解決の学習経験を豊富にもてるように指導計画を作成し指導を工夫する。
- 2 体験的な学習を取り入れる……子どもが受け身の座学ではなく、自ら課題をもち、人や物、事象に直接かかわる活動を可能な限り取り入れるように指導計画を改善する。
- 3 学び合い・協同的な学習を取り入れる……子どもどうしや子どもとゲストティーチャーなどの学び合いの活動では、教師は司会者やコーディネーターなどの役割をし、子どもたちが学びの過程を自分で歩み、成果を自分たちでまとめていくように支援する。
- 4 探究的な学習となるようにする……導入や第一小單元などで設定した学習課題の解決過程から新たな課題を発見し、更にそれらを追究していくように指導する。
- 5 子どもの興味・関心、問いや疑問を生かすようにする……子どもの主体的な学びが成立し発展するためには、子どもの興味・関心や学習能力等を指導を通して把握し、学習対象や教材等から子どもの問いや疑問を引き出し、それらを生かした学習となるようにする。
- 6 教材・学習材を工夫する……子どもが自ら知識・理解を求め身につけていくための学習材を工夫する。教師が提示したもから子どもが学習材を見いだしたり、自分たちで材料を収集したりすることを大切にする。
- 7 基礎的・基本的な知識・技能の活用を取り入れる……学年進行により学習経験は積み上げられる。これらを活用すれば、自分の力で学習の課題・問題の解決に取り組めることを実感できるようにする。教科学習での既習事項を活用した経験を生かすようにする。
- 8 自己評価や相互評価等を重視する……教師の評価によるよさや進歩の肯定的評価に加えて、自己評価や相互評価の機会を多く取り入れ、メタ認知の能力を高め、自己の進歩を自覚し自信や意欲をもてるようにする。
- 9 ティーチャーとファシリテーターの役割を使い分ける……学習事項を習得させる場面では指導者となり、子どもの主体的な学びを重視する際には支援者・引き出し役となるなど、学習の状況に応じた指導を工夫する。
- 10 アクティブ・ラーニングの指導の協力・連携の体制を確立する……授業の質を高めるために取り組むべき課題を明確にし、学校をあげて教師自らアクティブ・ラーニングを実践する。また、家庭や地域の人々の協力・連携が得られるようにする。

板書で気付きの質を高める

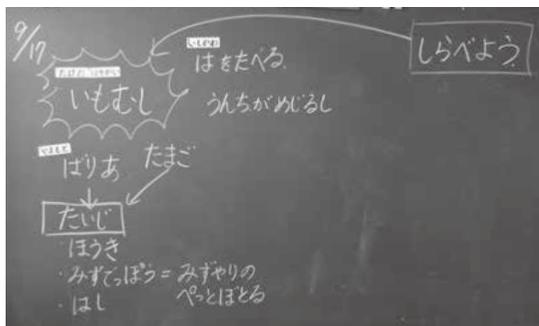
～生活科における板書の重要性を問う～

新潟県新潟市立山田小学校教諭

にの
二野 憲子

❶ 生活科に板書はいらない？

私は以前、「生活科における板書は、活動のめあてや進め方を示したり学級全体の思考の流れを書き留めたりするためにある。メモ書きと同等だ。」と考えていた。次の板書を見ていただきたい。



キーワードを矢印でつなぎ、子どもの思考の流れを端的に書いたつもりだった。ところが、参観者から次の指摘を受けた。「思考の流れはわかる。でも、学習課題『あさがおにいるイモムシをどうしたよいか』を、とらえにくいのではないか。」確かにキーワードをつなぐだけでは、全ての子どもが学習課題を把握し、思考することは難しい。

新潟市では、「学習課題」を問いの形で設定すること、毎時間の「学習のまとめ」を板書することを大切にしている。たとえば、活動主体で個別の追究が多い生活科であっても、学級集団としてのまとめをし、かつ板書することを目指している。学習カードを書かせたり、気付きを発表させたりするだけでは、まとめにはならない。

試行錯誤の結果、「学習課題」を問いの形で板書

すること、及び「学習のまとめ」を板書することが、気付きの質を高めるとわかってきた。本稿では、授業の実際を基に、生活科における板書の重要性について述べる。

❷ 「学習課題」を問いの形で板書する

(1) なぜ問いの形なのか

虫眼鏡を使ってあさがおの観察をする授業で、「学習課題」をどう板書するだろうか。

- ① あさがおのかんさつ むしめがね
- ② むしめがねで あさがおの かんさつをしよう

以前の私は、①のようにキーワードだけ、あるいは、②のように活動のめあてを板書していた。しかし、これでは、あさがおを見るだけでよいことになってしまう。

そこで、次のように「学習課題」を設定した。

- ③ あさがおの からだは どうなっているかな。

本時のねらいは、あさがおの葉やつるなどの体の特徴に気づき、世話活動への意欲を高めることである。③は、子どもの主体的な問題解決を促し、「葉に毛が生えている」などの気付きを生みやすくする。

(2) 子どもが「学習課題」を設定する

では、問いの形の「学習課題」を、教師が提示すればよいのだろうか。それでは、子どもにとって、させられる学習になる。重要なのは、子どもが意欲を高めながら「学習課題」を設定することである。

そのための働き掛けについて、次の事例で述べる。

1年「わたしのあさがお」授業記録より

T1：この前あさがおの観察をした時に、C1さんが虫眼鏡を使って観察したいと言っていました。C1さんは、どうして虫眼鏡で観察をしたいのですか？

C1：ちっちゃいものが大きく見えるからです。

T2：なるほど。こちらのテレビ（実物投影機と接続）を見てください。虫眼鏡であさがおが大きく見えるかな？

C2：あっ、何かいる。すご〜い。

C3：先生、葉っぱを裏返して。

T3：C3さんは、葉っぱの裏を虫眼鏡で見たいのですね。ほかにも見てみたいところがある人はいますか？

C4：私は、つるを見てみたい。

C5：僕は、つるの先が見たいです。

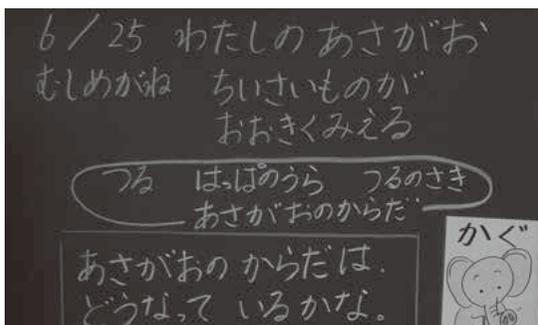
T4：あさがおの体を見てみたいってこと？

C6：（口々に）はい。

T5：では、この時間は、虫眼鏡であさがおの体を見て、どうなっているかなって調べる時間にしていいですか？

C7：はい。

〈板書〉あさがおの からだは どうなっているかな



虫眼鏡という教材と、**T1**～**T4**の言葉かけで、あさがおの体に目を向けさせている。このように、子どもが「やってみたい」という思いをもつような教材や発問を教師が工夫することで、子どもが「学習課題」を設定することができる。

④「学習のまとめ」を板書する

ここからは、三つの事例を基に、「学習のまとめ」における板書について、学習課題と併せて述べていく。

(1) キーワードでまとめる

1年生との交流「みんななかよし」における板書

「冬で外遊びができなくなって、休み時間に何をして遊べばいいかわからない。」という1年生に、教室やオープンスペースでできる遊びを2年生が教える単元である。本時は実際に遊びを教える時間である。遊びの時間を十分確保する必要があることから、学習課題は前時に設定した。

〈学習課題〉

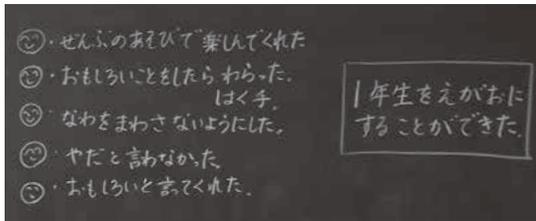
1年生にあそびを教えて、えがおにできるでしょうか。

キーワードは「えがお」にした。

子どもたちは、大縄や大根抜き、すごろくなどの遊びを1年生に紹介し、一緒に遊んだ。

まとめで気づきを交流した。笑顔マークと共にこれらの気づきを板書していき、最後に学級全体で「1年生をえがおにすることができた」とまとめた。その結果、A児の振り返りに見られるように、学級

集団としての満足感が高まった。



〈A児の振り返り〉

みんなのおかげで、1年生が休み時間のようにしあわせにわらっていた。

（2）学級集団と個別のまとめを融合させる

モルモットの飼育「クロちゃんと友だち」における板書

1年生時に2年生から飼育を託されたモルモットのクロちゃん。1歳の誕生日をお祝いするパーティーを開くことになった。誕生日パーティーは、飼育を通して得た気付きが表出する場になると共に、クロちゃんへの親しみがいっそう膨らむ機会となる。

本時は準備の3時間目である。子どもの一部に、クロちゃんを祝う気持ちより、制作を楽しむ気持ちの方が大きくなってきた様子が見られた。そこで、クロちゃんのためにパーティーの準備をしているこ

とを確認し、学習課題を設定した。

〈学習課題〉

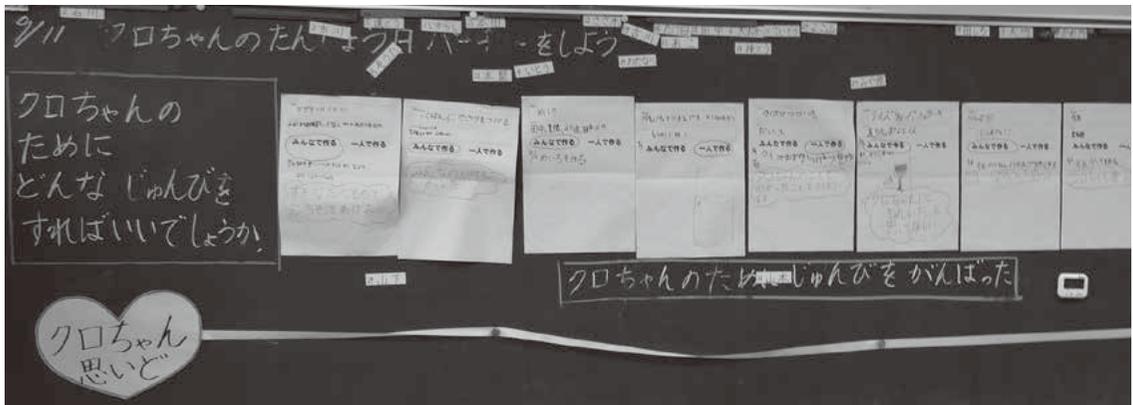
クロちゃんのために、どんなじゅんぴをすればいいでしょうか。

クロちゃんが転がしやすいおもちゃをつくる、クロちゃんが好きなクローバーの絵を看板に付けるなど、前時よりクロちゃんを大切に思いながら活動することができた。まとめでは、どんな準備をしたのかを交流した。個々の気付きと共に、学級全体で「クロちゃんのことをよく考えてじゅんぴができた」と板書にまとめた。

ここで、クロちゃんへの思いをカードに書かせれば、教師が見取りやすくなるだろう。しかし、子どもは、準備することでクロちゃんへの思いを表現しているのに、終末にカードを書きたいだろうか。

そこで、「クロちゃん思い度」をネームプレートの高さで個々に示すことにした。

ほとんどの子どもが、ネームプレートを黒板上部に貼った。プレートを見上げ、クロちゃんが大好きだという思いを自覚していた。



板書で気付きの質を高める～生活科における板書の重要性を問う～



(3) 観点別に気付きを整理・関連付けする

町探検「大すき 山田 たんけんたい」における板書

3回の町探検が終わり、探検先の人や、他学年の子どもたち、職員などを招いて発表会を開くことになった。本時では、まず、2回めの探検後に行った発表会を振り返った。次の発表会では、見付けたことの羅列ではなく、山田の町ですてきなところを伝えることになった。

〈学習課題〉

町たんけんですてきなことは何ですか。

子どもは、発表会で伝える内容を決めるために、探検で見つけた町のすてきについて交流した。教師は「きれいなもの」「珍しい」などの観点に分けて

構造的に板書していった。

「学習のまとめ」を全員で考えていた時、板書をじっと見ていたB児がつぶやいた。「山田の町がすてきなのは、一人一人がすごくて、がんばっているから。だからすてきがいっぱいです。」この意見を「学習のまとめ」にすることになった。

〈C児の振り返り〉

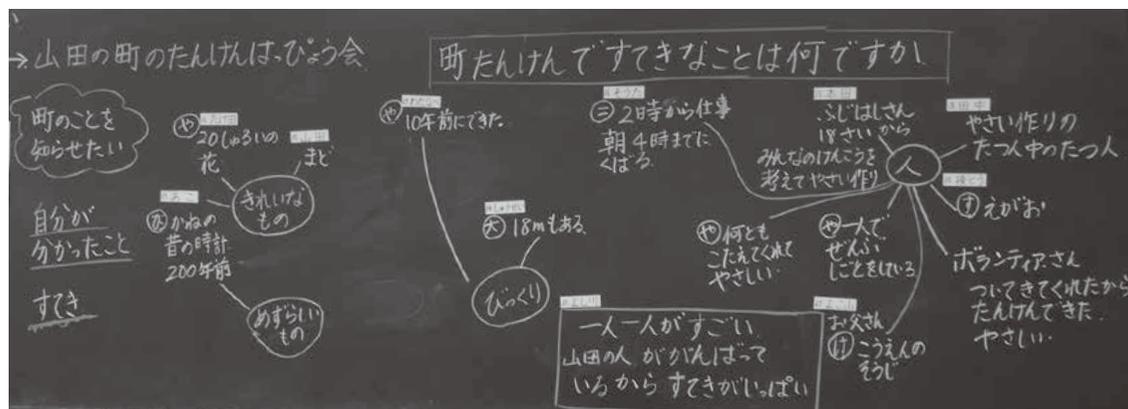
Bさんが言ってくれたように、一人一人がすごく山田の人ががんばっている。はっぴょうがとっても楽しみだと思う。

板書があったからこそ気付きが関連付けられ、次時の活動への意欲が高まった。

4 板書は気付きの質を高める

学習課題とまとめに何を書くかを考えると、おのずと授業の構成を考えることになる。子ども主体の生活科だからこそ、子どもの目の前にある板書が、気付きの質を高める重要な環境であることを心に留めておきたい。

最後に、本稿における実践は、新潟市立総合教育センター青木博子指導主事からご指導いただいた。深く感謝している。



自ら考え 自ら学び 互いに高め合う子どもをめざして

～5年総合 東高津グリーンプロジェクトの実践から～

神奈川県川崎市立東高津小学校教諭

石井 芳宏

Ⅰ はじめに～単元設定の理由

環境の悪化が世界規模で進んできている昨今、未来の主人公である子どもたちが現在の地球環境について考え、これを保全し、よりよい状態にしていくなために行動を起こしていくことは重要なことだろう。また、これらの問題はグローバルであると同時に、子どもたちの身近なところにも存在する。したがって、子どもたちの発想からさまざまなアクションを起こすことができる。このアクション（＝プロジェクト）を行うことを通して、子どもたちは机上の議論に終わらず、多くのことを学んでいけると考えた。また、このプロジェクトには、周囲の仲間が存在が欠かせない。本単元を通して、仲間とともに試行錯誤を繰り返し協同しながら学んでいく素晴らしさを味わってほしいと願った。

Ⅱ 研究主題に迫る手立て

研究テーマ「自ら考え 自ら学び 互いに高め合う子ども」を育成するために、本単元では以下のような手立てをとった。

ア 学年で共通の学習テーマを掲げ、具体的な活動は学級ごとに行う

本校ではこれまで学年で一つの総合を行ってきたが、学級ごとに活動した方がより目の前の子どもの思いや願いに寄り添うことができる。環境という共通の学習テーマを設定しつつ、実際の活動は学級ごとに行うという、学年総合と学級総合を組み合わせた単元を構想した。

イ 「うまくいかないこと」の重視と試行錯誤可能な時間の保障

学習が探究的になるためには、その過程で「う

まくいかないこと」が生じることが重要になる。子どもは、その壁を乗り越えるべく繰り返し対象と関わったり、試行錯誤したりするからである。その際には、単元を通して大切にするとところに立ち返るようにした。また、時間的な余裕をもった単元構成にした。

ウ 体験活動と思考・表現活動をセットにして位置付ける

体験活動と思考・表現活動をセットにして行うことは、生活科だけでなく総合においても同様と考える。また、思考・表現の場面においては、ツールを使って思考を可視化し、自らの考えを認識したり、仲間とのコミュニケーションが図れたりできるようにした。

Ⅲ 単元の概要

- 単元名：挑優輝 環境プロジェクト～東高津グリーンタウンプロジェクト
（「挑優輝」とは造語で学年愛称のこと）
- 単元の目標
身近にできる環境保全に関わる活動を友達と協力して行うことを通じて、自分たちがこれからの地球環境を創っていく主体であることを自覚し、自己の生き方を考えようとする。
- 単元計画（全55時間）

課題意識を高める活動（7時間）

- 総合の学び方を知る。
- 現在の異常気象を身のまわりの体験や映像資料などから知り、環境問題が起こっていることに気付く。

探究活動1（14時間）

現在行われている環境問題に対する対策を調べ、そ

の上で自分たちができる環境対策（プロジェクト）を考える。

- 身近に行われている環境対策を調査する。
- これからの取り組みに際しての指針を決め、それを踏まえてクラスで活動できそうなプロジェクトを一人一人考える。
- クラスメイトの考えたプロジェクトをお互いに分析し合い、クラスの活動としてふさわしいものを決定する。

探究活動2（34時間）

クラスのプロジェクト（本学級は「東高津グリーンプロジェクト」）を実践する。

- 川崎市で行われている緑化活動を、活動に携わっている方から知る。
- 緑化募金の計画を立て実践し、その募金をもとに、樹木を入手して植樹する。
- 全校に向けて活動の報告をする。

4 単元の実際

(1) 総合の学び方を共有する

学級開きでは、広く「学ぶ」とはどういうことかについて、『はてなからびっくりへ』（「？」→「！」）という授業で考えた。わからないことがわかるようになることが学ぶことであり、「→」の部分には「調べる」「聞き合う」「たずねる」「試してみる」など、さまざまな学習行動があることを確認した。では、「→」が太く長くなったらどんな学習になるかと問

うてみると、子どもからは右のような答えがあがった。そして、このような学び方が「総合的な学習の時間」の学び方と関連があることを示唆した。子

- 長く考える
- よくなる
- レベルが上がる
- 努力する
- 深く学ぶ
- 興味をもつ
- みんなで協力する
- 簡単にはあきらめない

どもたちからは「自分たちの頭で考えて、自分たちで進める学習」「失敗を活かす学習」「教科書がなく、自分たちで教科書を創る学習」「一人でなく、クラスみんなで力を合わせる学習」「学校や地域に発信していく学習」「地域の人も先生になる学習」など、これまでの総合の時間を想起し、これから始まる総合の学びの構えをつくっていった。

(2) 環境問題との出会いからプロジェクトの決定へ

昨年5月も暑い日が続いた。28度まで気温が上がった日に、「実は30年前の今日は5度も気温が低かったんだよ」とデータを提示すると、子どもたちからは一様に驚きの声が上がった。このことを入り口に映像資料なども使いながら、現在の異常気象や世界各地で起こっている環境問題について知った。この問題に関心をもった子どもたちは、前年に環境問題を学習した6年生にどんなことを行ったかインタビューしたり、地域で行われている環境対策について調査したりした。そのなかで、地域・学校・家庭でさまざまな対策がとられていることがわかり、Yチャートを変形したものにまとめた。



それぞれの場所で行われている環境対策をまとめる

このなかで子どもたちは、自分たちの力でも何かできることはあるのではないかと考え、「私のイチオシプロジェクト」を考案することにした。その

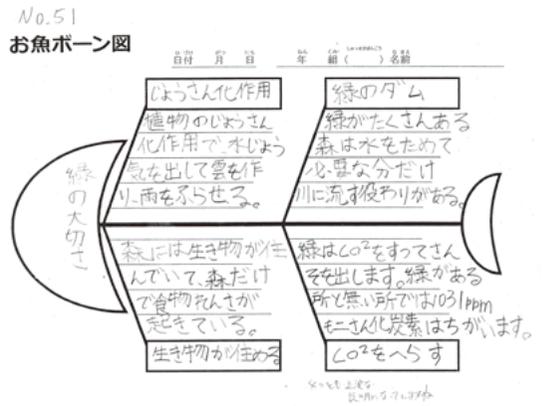
際に設けたのが下の「四つの条件」である。これはプロジェクトの内容を考える指針となり、またプロジェクトの適切さを考える尺度にもなった。同時に、プロジェクトを実践するなかで、常に立ち戻る柱にもなるものであった。

- 【この活動で大切にしている四つの条件】
- A：みんなで協力できる活動であること
 - B：人の役に立って、暮らしに役立つような活動であること
 - C：みんなが笑顔でできて、みんなが笑顔になる活動であること
 - D：長く続けられる活動であること

この四つの条件に基づいて、子どもたちは仲間のプロジェクトをお互いに分析していった。「Aさんの雨水利用プロジェクトは、日頃から活動ができるから、長く続けられる活動だね。しかも、色々なことに使えそうだから、みんなを笑顔にすることもできそうだ。」「Bさんのフリーマーケットプロジェクトは、出品する人も買う人も笑顔になれそうだね。でも、一回で終わっちゃうんじゃないかな。」などの考えがワークシートに記されていった。こうして、多くの賛同を得たのが、緑化のために募金活動をしながらか得た資金で樹木を購入し、植樹する緑化活動であった。みんなで協力して継続的な募金活動を行い、緑を増やすという活動は、環境問題を訴えると同時に、身のまわりの人々を笑顔にすることができる。また、植樹という形でプロジェクトが形に残るという意味で自分たちの達成感につながるのではないか、という考えから選ばれたものであった。

(3) 試行錯誤し、話し合いながらプロジェクトを具体化

活動内容は決まったものの、緑化活動に取り組む子どもたちの思いはまだ十分ではなく、安易に募金活動を行おうとする空気も感じられた。そこで、校長と相談し、緑化募金をしたいという申し出をすぐには受け入れず、今一度自分たちの思いやプロジェクトの意味を問い直す機会をもった。すんなりいかなかったことにショックを受けた子どもたちもいた



思考ツールを使って緑の効果をまとめる

が、「まずは、緑の意義や緑化活動のことをもっと知ることが大切ではないか」ということで、地域にある地球温暖化防止活動センターの方や、市内で緑化活動に取り組む方をゲストティーチャーとして招き、話を聞いた。このなかで、自分たちの住む区は、川崎市市内でも最も平均気温が高いということを知ったり、緑があるとところとないところの二酸化炭素濃度の違いを測定したりすることを通じ、活動の必要性を実感していった。また「緑化募金もいいが、実際に里山の緑を手入れする活動にも目を向けてほしい」といったアドバイスは、緑化活動にはさまざまな方法があることを認識することにつながった。

このようなことを経ながら、緑化募金活動を立ち上げていくことにした。一つのプロジェクトを立ち上げるには、多くの仕事を分担しなければならない。今回のケースでは、表のような役割分担が生まれ、子どもたちは自分の得意な分野を選択し、活動を行った。

- 募金箱作りグループ
- ポスター作りグループ
- 募金お知らせグループ
- 募金場所確保グループ
- お金計算グループ
- しおり作成グループ

準備ができたところで、本校の児童や保護者を主な対象として募金活動をスタートさせた。初めのうちは堂々と訴えられない子どもが多くいたり、訴える内容が低学年児童には難し過ぎたりという問題が

自ら考え 自ら学び 互いに高め合う子どもをめざして

～5年総合 東高津グリーンプロジェクトの実践から～



力を合わせて植樹

起こった。このように問題が起こるとその度に話し合いをもった。その際には、まず個人の考えをもつ時間を保障した。その上で一人一人の考えを名簿にまとめて配付し、お互いの考えがわかった上で話し合いをスタートさせるようにした。また、一人一人のネームプレートを使いながら黒板に自分の立場を示すことで、お互いにその立場の根拠をたずね合えるようにした。

さて、募金活動と同時に植樹についても考えていった。植樹については簡単に考えている子どもが多かったが、今ある資金のなかで、どのような場所に、どのような樹をどれくらい植えるのか。また、植えた後の手入れはどうするのかなど、実際には考えることが多いことに気付かされた子どもたち。用務主事さんや園芸屋さん話を聞いたり、さまざまな種類の樹を調べたりして、ふさわしいものを考えていった。最終的に、一年を通じて変化があり親しみがわくという理由から「ジュンベリー」という樹を選び、植樹した。そして、植樹後、活動の報告とこれ

単元を通しての活動心情曲線

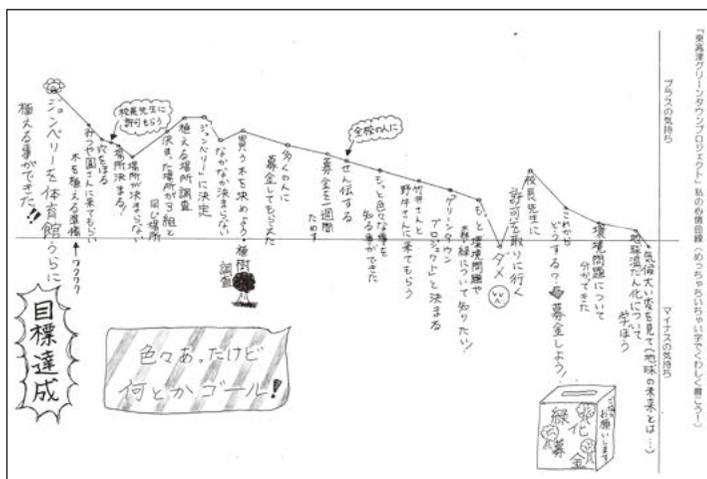
からも緑を大切にしていってほしいという願いを全校児童に伝えた。

(4) 学習を通じて身についた力を考える

学習の最後に、これまでの活動を振り返った。国語科で学習した登場人物の心情曲線を活かし、活動のポイントごとに自分の気持ちがどのように変化していったかを考えた。これを用いて交流することで、お互いの活動に対する気持ちの移り変わりや、この学習での学びを確認することができた。また、この単元で身についた力として、子どもたちの振り返りからは「創造力」「力を合わせる力」「決断力」「継続力」「想像力」などの言葉が見られた。

⑤ 実践を終えて

この活動を通じて、子どもたちにはさまざまな変化が見られた。当初、仲間の考えを受け入れることがなかなかできなかった子が、相手の意見に共感した上で自分の考えを述べることの大切さに気付いたり、みんなの前で発言することができなかった子が、募金活動において自分事として提案したりする姿も見られた。この活動を通じて、多くの子どもが、自分たちの力で何かを成し遂げることの素晴らしさを体感したようだった。今後は、もっと活動の規模や質を豊かにしていくことで、さらにテーマに迫る子どもを育てていきたいと考えている。



「私は日本文学の素晴らしさを伝えたい」

学芸員 大西 慶

上記の言葉は、日本文学研究者、文芸評論家であるドナルド・キーン先生によるものだ。「ドナルド・キーン・センター柏崎」は、キーン先生のこの想いを少しでも世界に伝えるために、それまでにキーン先生とつながりのあった新潟県柏崎市に2013年9月にオープンした。キーン先生の業績や人となりを通して、「日本文学」や「日本文化」の素晴らしさ、おもしろさを伝えることを目的とした文学館である。展示施設としては、ニューヨークでキーン先生が使っていた書斎を部屋ごと再現した復元展示室のほかに、常設展示室や特別企画展示室がある。常設展示室では、ドラマチックなエピソードで綴るキーン先生の今日までの歩み、日本文学との出会い、キーン先生の日本文学研究世界を彩る人物図鑑、邂逅の作家たち、キーン先生の代表作品などのテーマに基づくパネル展示に加え、各著書や資料、書簡、ジオラマなどの多岐にわたる展示がある。

柏崎とキーン先生をつないだ古浄瑠璃

柏崎とキーン先生の出会いは、2007年7月に発生した中越沖地震に遡る。震度6強の激震に見舞われ、柏崎が復興の険しさに立ちすくんでいる時、一つの文化活動が企画された。それが、キーン先生の提案による古浄瑠璃「越後国柏崎 弘知法印御伝記」の上演だった。この浄瑠璃は、1962年にキーン先生の友人である早稲田大学の鳥越文藏先生が大英博物館で発見した日本に現存しない幻の古浄瑠璃だった。柏崎は、角書き（サブタイトル）にもあるように、この古浄瑠璃の舞台となっていた。市民による「柏崎ゆかりの古浄瑠璃を復活初演する会」が結成され、町ぐるみでの活動が開始された。2年近くの準備期間を経て、2009年の6月7日に300年の時を越えて、柏崎で越後猿八座によって復活上演された。その公演は復興の道を進む市民を励ました。

ドナルド・キーン先生



キーン先生は1922年ニューヨーク生まれ。日本文学研究者、文芸評論家。コロンビア大学名誉教授。1940年、18歳の時、アーサー・ウエーリ訳『源氏物語』に感動し、以来、日本文学や日本文化の研究を志す。太平洋戦争では、アメリカ海軍日本語学校で日本語の猛訓練を受け、語学将校として従軍。ガダルカナル島で米軍が入手した日本兵の日記を読み、感動する。戦争が終わると、日本語を捨てることはすまいと決意し、コロンビア大学大学院で恩師、角田柳作先生に日本文学を学ぶ。その後、ケンブリッジ大学で日文学研究のかたわら学部生に日本語を教える。1953年から2年間、京都大学大学院に留学。帰国後は、アメリカと日本を行き来しながらコロンビア大学で日文学を教える。谷崎潤一郎、川端康成、三島由紀夫、安部公房、司馬遼太郎など日文学を代表する作家と交流を深めながら、古典文学から現代文学にいたるまで広く研究し、海外で紹介する。日文学の国際的評価を高めるのに貢献し、2004年に文化功労者、2008年に文化勲章を受章。

2011年3月の東日本大震災後、日本国籍取得を表明。2012年3月、帰化申請が受理され日本人となる。雅号は、「鬼怒鳴門」。主な著書として『日文学の歴史』全18巻、『明治天皇』等多数。現在も研究や執筆、講演会など数多くの活動を続けている。

柏崎 (新潟県柏崎市)



▲越後猿八座の旗揚げ公式ポスター
(2009年6月 柏崎市産業文化会館
文化ホール)



▲ニューヨークのキーン先生の書斎を復元した展示室。本棚に並ぶ本も、当時と同じになっている。これらの本にはキーン先生が書き込みをしたものもあり、閲覧も可能。書斎にある4枚の扉も、ニューヨークから移築した。窓の外のハドソン川の眺めも再現。

ニューヨークの書斎を丸ごと再現

キーン先生の自宅は、コロンビア大学に近い、ハドソン川の川辺に建つ由緒あるアパートメントの11階にあった。その自宅の書斎は、キーン先生が原稿を執筆する仕事場であり、多くの友人たちと語りう場だった。

2011年3月11日の東日本大震災後に日本人となることをキーン先生が決心した際、当初、ニューヨークの書斎はなくなってしまう予定だった。このことが「ドナルド・キーン・センター柏崎」の設立構想となった。そして、中越沖地震の復興でつながりの

あった柏崎に、ニューヨークの書斎をそのまま再現することになった。大量の書籍やCD、ソファなどの家具を展示している書斎と居間では、キーン先生がこれまでに取り組んできた日本文学研究をはじめ、音楽評論、趣味の骨董品収集など、さまざまな一面を見ることができると同時に、愛してやまない日本への想いを感じることができる。

ドナルド・キーン・センター柏崎 公益財団法人ブルボン吉田記念財団

- 新潟県柏崎市諏訪町10-17
- JR信越本線 柏崎駅より、市内循環バス「かざぐるま」東本町先回り線「中央町」バス停下車徒歩3分
- TEL・FAX：0257-28-5755
- 開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）
- 休館日：毎週月曜日（祝日、振替休日の場合はその翌日）
12月26日～3月9日は冬期休館

<http://www.donaldkeenecenter.jp/>



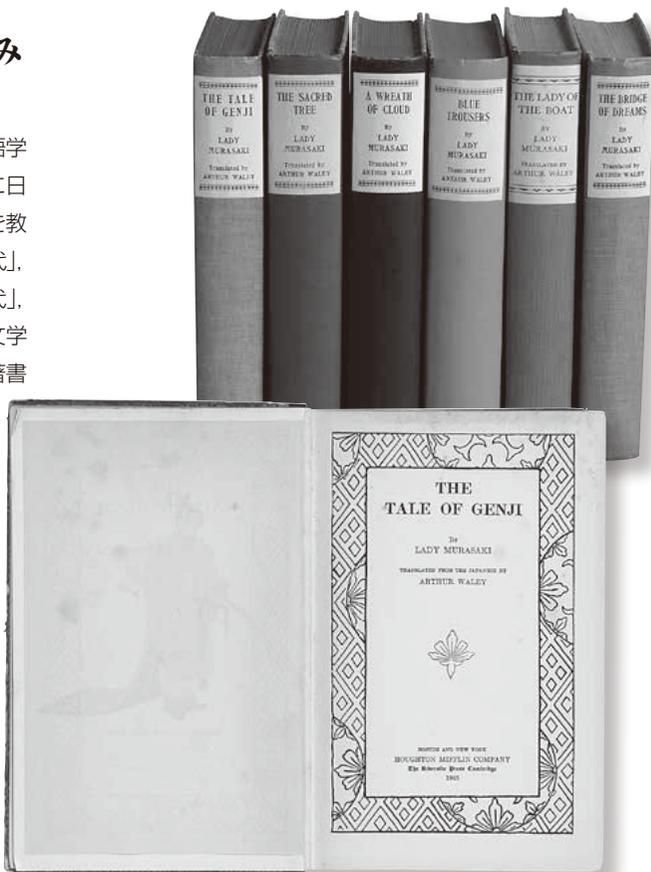
紙上博物館——キーン先生の業績、歩み、人となりを

ドナルド・キーン先生の今日までの歩み ——年譜——

1922年から今日までを「少年・青年時代」, 「海軍語学将校として従軍した太平洋戦争時代」, 「角田柳作先生に日本文学を学んだコロンビア大学大学院時代」, 「日本語を教えながら日本文学研究に没頭したケンブリッジ大学時代」, 「憧れの日本留学京都時代」, 「コロンビア大学教授時代」, 「日本人になった近年」などに区分し, 各時代の日本文学研究活動や歴史背景, エピソードなどを貴重な写真や著書と共に紹介している。

2巻セットで49セントだった 『源氏物語』との出会い

1940年, 第2次世界大戦がヨーロッパではじまり, ニューヨークの若きキーン青年は, 戦争がやってくるのを怖がっていた。ある日, タイムズ・スクエアの行きつけの売れ残ったゾッキ本(特価本)を扱う本屋で2冊の本が目にとまった。それは“The Tale of Genji”(『源氏物語』)だった。2巻セットで49セント, 買い得だと思いキーン青年は購入した。アーサー・ウエーリの翻訳は夢のように魅惑的で, 激しくなる戦争の足音から逃げるために夢中になって読んだ。



▲アーサー・ウエーリ英訳
“The tale of Genji” Houghton Mifflin Company 1925年

評伝『明治天皇』

(ドナルド・キーン著, 角地幸男訳 新潮社 2001年)

キーン先生は, 1992年に新たな評伝に取り組んだ。それが『明治天皇』である。調査, 執筆に9年もの歳月を費やした伝記は, キーン先生でなければ書けなかったものであり, 明治天皇を通して, あの時代の日本を浮き彫りにした大作である。そして, この作品は2000年に死去した終生の友, 永井道雄(教育社会学者, 元文部大臣)に捧げられている。



▲『明治天皇』
(ドナルド・キーン著, 角地幸男訳
新潮社 2001年)

戦場のエロイカ・シンフォニー

太平洋戦争中、海軍日本語学校で日本語を学び、情報士官としてハワイに派遣されたキーン青年の任務は、ガダルカナル島で米軍が入手した日本軍に関する書類や日本兵の日記の読解、捕虜収容所での日本兵の尋問などであった。ある日、尋問を通して親しくなった捕虜の一人から、西洋のクラシック音楽が聴けないのが淋しいと打ち明けられ、音楽会を開いた。



▲キーン先生がレコードコンサートで使用したものと同型のポータブル蓄音機。



▲大型映像ホール

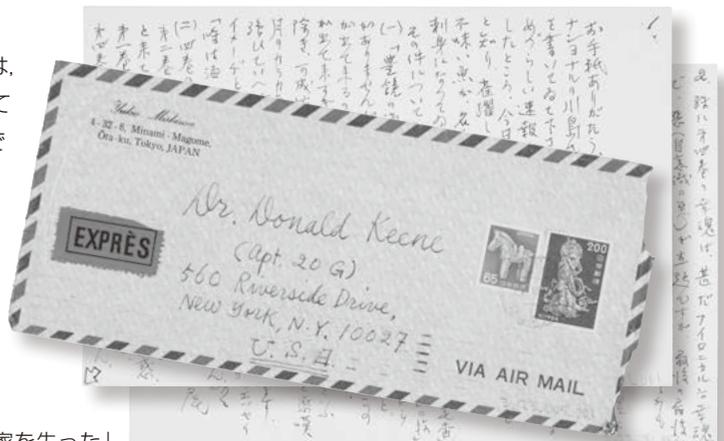
豊富な映像資料

当センターの大きな特徴の一つが、豊富な映像資料だ。キーン先生の「人となり」、「作品・業績」、「日本への思い」などをテーマに、制作した映像は40本を超える。そうした映像作品を200インチの大型スクリーンで上映する映像ホールは、限りなく日本を愛するキーン先生の思いを映像で伝える場でもある。

三島由紀夫からの書簡

1970年11月25日の三島由紀夫の自決は、世界に大きな衝撃を与えた。歌舞伎座で初めて会って以来、キーン先生と三島由紀夫は親友であった。三島からの最後の手紙は、彼の死の2日後に届いた。自決した日の朝、三島夫人が投函してくれたものだった。自決直前に書かれた手紙は、次のようにはじまる。「小生たうたう名前どほり魅死魔幽鬼夫になりました。小生の行動については、全部分つていただけると思ひ、何も申しません。」

「私は無二の親友を失い、世界は偉大な作家を失った」キーン先生の偽らざる心の内だった。



▲三島由紀夫からの書簡（レプリカ）1970年11月26日消印

「立体はがき」を作って、 思いを届けよう!

窓のあるはがき。
窓の中に、好きなものや、思い出、感謝の気持ちをつめ込み、自分だけの一枚に仕上げる。
それは作っても楽しく、受け取る人もうれしい。
そんな素敵^{みづほる}な「立体はがき」を考案した津村満治さんの工房を訪ねた。



「立体はがき」とは

はがきサイズに切った厚紙3枚（2枚は窓を開けておく）を貼り合わせ、できた空間に木の葉や押し花、砂などを入れたもの。そこに、絵を描いたり写真を貼ったりして、自由な発想でオリジナリティーに富んだはがきに仕上げる。

生活科では、さまざまな表現活動を行う。教科書には、探検の訪問依頼、お世話になった人へのお礼、発表会への招待などで、手紙や、作文、感謝状など、さまざまな表現活動を例示している。

そこで、低学年児童用にもアレンジできそうな「立体はがき」を紹介したい。

手紙工房を訪ねて

“廃材を再使用して何かできないか”

もともとインテリアやディスプレイ、プロダクトデザインの分野で活躍していた津村さんは、その仕事のときに出る廃材を使って何かできないかと考えた。繰り返し使える材料として「紙」に注目し、段



立体はがきを生み出して18年が経つという。工房の棚には、たくさん作品や材料、道具が並んでいる。

ボールや厚紙、紙管を使った物の研究を進めていく。

さまざまな試行錯誤の末、

1997年、ついに段ボールや厚紙を再使用した環境に優しい「立体はがき」を生み出した。

その名のとおり、立体的に表現ができる。窓の中に、木の葉や押し花、砂、貝殻などを自由に配置し、そこに絵を描いたり、写真を貼ったりする。更に、切る・めくる・物を埋め込むなど、アイデアしだいでは無限の宇宙が広がる。

作品は、フリーマーケットへの出店をきっかけに、しだいに注目を集め、雑誌や新聞の取材・掲載、テレビへの出演など、マスメディアに取り上げられることが増えていく。

現在は、井の頭公園のアートマーケットへの参加を中心に、毎週末、東京近郊のフリーマーケットに出店している。

その他、小学校や老人ホームでのワークショップ、保育士の講習会などに「立体はがきの制作キット」を持っていき、作る楽しさを多くの人に届ける活動もしている。





“自分でも作ったという「立体はがき」が届くのうれしい”

「立体はがき」の購入者や講習会の受講者からたくさんのお礼の手紙が届く。なかには、「自分でも立体はがきを作りました」と、その作ったはがきで送ってくれる人もいて、それがなによりもうれしいという。また、購入者は、作品が気に入る、自分の手元に置いたままにしておく人が多い。「誰かに思いを伝えるために、ぜひ使ってほしい」と語る。

“考案した「立体はがき」は4000種類”

津村さんはこれまでに、4000種類もの立体はがきを考案してきた。現在は、そのうち200種類をスタンダード作品として制作を続けている。

立体はがきは、作っても楽しく、受け取る人もうれしい。手をかけて作ってくれたという思いや、紙から伝わる温もりにも特別感を感じることができる。

伝達手段として、手紙は、メールやSNSと比べると手間がかかる。しかし、手作りだからこそ生まれる温かさを、ぜひ感じてほしいと、津村さんは言う。

プロフィール

津村満治

1947年大阪市生まれ。

インテリア・ディスプレイ・プロダクトデザイン分野での活動を経て、96年古紙、再生紙の活用をテーマに素材研究・製品開発を始める。97年、段ボールや厚紙を素材にした「立体はがき」を開発。フリーマーケットを中心に活動しながら、小学校や老人ホーム、講習会などで「立体はがき」を作る楽しさを伝えている。将来は、「立体はがき」を中心に、独自に開発した郵便グッズを集めた小さなお店を開くことが夢という。

手紙を出してみよう!

【はがきの料金】

- 厚さは1cmまでで、25g以内は82円切手、50g以内は92円切手で送ることができる。
- 表面（宛名面）の上部に、「POST CARD」または、「郵便はがき」と記入する。



「立体はがき」を作ってみよう!

落ち葉を使った「立体はがき」を作ってみよう。



準備するもの

材料

- 厚紙
(表紙・中間紙・裏紙で使用)
- OHPフィルム
- 背景になる色紙・写真など

道具

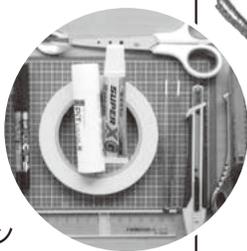
- 両面テープ ● のり
- 多用途接着剤
- カッターナイフ
- ハサミ
- 定規
- カッターマット

画材

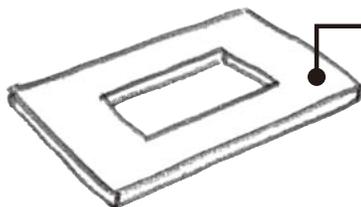
- ポスカ (極細)
- 絵の具
- 鉛筆 ● 油性ペン

素材

押し花, 押し葉, 実や種, 砂や貝,
布, 糸, ひも, 紙粘土 など



パーツと分解図



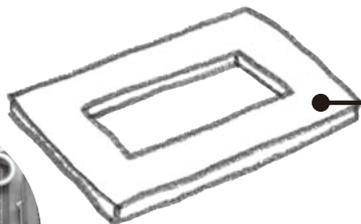
表紙

厚紙を「はがき」の大きさに切り, 更に窓枠部分も切る。
(はがきサイズ: 100mm×148mm,
窓枠サイズ: 50mm×100mmくらい)



透明フィルム

OHPフィルムを窓枠サイズより少し大きく (四方を約5mmずつ) カットする。



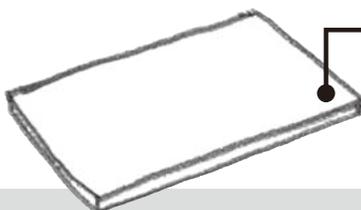
中間紙

表紙と同じ形状のもの。
※段ボールを使うと, 厚みが出る分, より大きなものを入れることができる。



背景紙

色紙や写真などを, OHPフィルムと同じ大きさにカットする。



裏紙

厚紙を「はがき」の大きさ (100mm×148mm) にカットする。

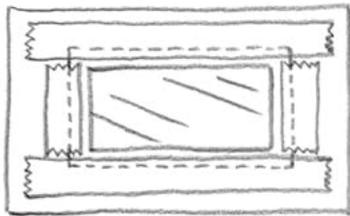
! 窓枠の切り抜き方のコツ

- 窓枠の「型紙」を作って鉛筆などでなぞると, 2枚の厚紙をきれいにそろえて, あけることができる。
- カッターナイフを使うときは, 強い力が必要なので, 子ども任せにしないようにする。



制作手順

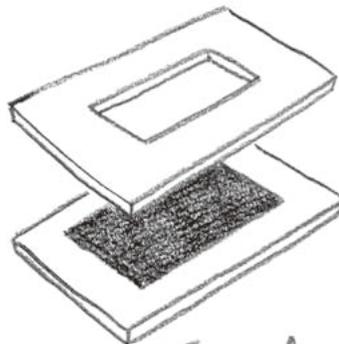
表紙の作り方



- 1** いちばん上にかぶせる「表紙」を作る。裏面に両面テープで、OHPフィルムを貼り付ける。



台紙の制作から完成まで



- 2** (1) 裏紙の全面にのりを塗る。
 (2) 窓枠の位置に合わせて、背景紙を貼る。
 (3) 中間紙の裏にのりを塗り、上から貼り合わせる。

※台紙ができあがる。



- 3** 台紙の中へ、素材を入れたり、多用途接着剤で貼り付けたりする。



- 4** **1**で作った表紙の両面テープのはくり紙をはがし、台紙の上へしっかりと貼り付ける。



枠の部分やフィルム面に、絵を描いたり、メッセージを書いても楽しい。



パーステーカード

カラフルでかわいい。
グラスサンドのきらきらが、お誕生日の華やかさを演出している。

クリスマスカード

降る雪は、発泡スチレンビーズで表現している。
夜空にまたたく星たちを見ていると、
クリスマス・キャロルが聞こえてきそう。



スマイルカード

受け取る人に笑顔をプレゼント。
スマイルシールを貼ることで、愛嬌のある作品に仕上げている。

生活科・総合通信 そよかぜ通信 【2015年 秋号】2015年9月1日 発行

編集：教育出版株式会社編集部
印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864(お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 北海道支社 | 〒060-0003 | 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509 |
| 函館営業所 | 〒040-0011 | 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198 |
| 東北支社 | 〒980-0014 | 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395 |
| 中部支社 | 〒460-0011 | 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825 |
| 関西支社 | 〒541-0056 | 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401 |
| 中国支社 | 〒730-0051 | 広島市中区大手町3-7-2
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040 |
| 四国支社 | 〒790-0004 | 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134 |
| 九州支社 | 〒812-0007 | 福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140 |
| 沖縄営業所 | 〒901-0155 | 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411 |